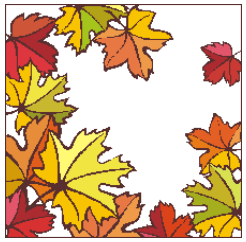
≪演奏者のプロフィール≫

**佐藤紀久子 （さとう きくこ）**
生田流の箏の演奏家で、東京芸術大学大学院を卒業。
卒業後は世界各地を廻って、邦楽の良さを紹介。

**大熊育子 （おおくま いくこ）**
東京芸術大学を卒業。
佐藤紀久子さんの同期生。

**武田明美 （たけだ あけみ）**
東京芸術大学を卒業。
佐藤紀久子さんの同期生。 ジャズ奏者とコラボも。

**中埜和童 （なかの わどう）**
偕行社会員。 防衛大学校10期（陸）
琴古流尺八の師範。



**平成30年度**
**偕行社文化祭・芸能発表会**

# 邦楽演奏を楽しむ

**場所： 偕行社**

**平成30年11月11日（日）**

≪演奏曲の紹介≫

## 1. 五段砧

作曲　光崎検校 （藤井凡大　十七絃　手付）
箏低音　佐藤紀久子　箏高音　大熊育子　十七絃　武田明美

五段砧は5つの段が連なった曲です。
砧は夜に布を叩いて、皺を伸ばしたり艶を出すための道具や作業のことで、
その音は、秋の夜に遠くまで響き、いかにも秋らしい趣を表します。

## 2. 新浮舟

作曲　松浦検校
箏　武田明美　　三絃本手　佐藤紀久子　三絃替手　大熊育子　尺八　中埜和童

源氏物語、宇治十帖の浮舟が題材。
浮舟は薫の君と契りを結びながらも、その後疎遠となり、宇治の山荘に
放置されたままであった。
そんな時、ふとした縁で匂宮と契りを交わし次第に心引かれていく。
やがて浮舟と匂宮の関係を薫に知られてしまい、匂宮との間に板ばさみ
となった浮舟は、死を決意する。

まめ人の　心の薫り忘れねど　色香もあやに咲く花の
徒し匂いにほだされて　つつましき名も橘や
小島が崎に誓ひてし　その浮舟の行方さへ
いざ　白波の音凄き
身も宇治川の藻屑とは　なりも果てなで世の中の
夢の渡りの浮橋を　たどりながらも契りあれや
すずしき道に入れんとて　現に返す小野の山里

## 3. 飛鳥の夢

作曲　宮城道雄　　作詞　仲小路彰
箏・唄　佐藤紀久子　大熊育子　十七絃・唄　武田明美
尺八　中埜和童

聖徳太子1130年記念芸術祭（高松宮様主催）で舞の地歌
「ひじりの宮のみ前にありて」として初演された。
後に「飛鳥の夢」と改題。

ひさかたの　天津み空に　夢殿の
み夢はてなく　常とわの
尽きせぬ願ひ わだつみも
よろずの国も　やすかれと
聖の皇子の　みむね仰ぎて

外国も　心睦びて　平和の
まことの道を　つぎつがむ

この日この時永遠ぞ　ここにいまして
明けゆく　天地の　幸多かれと

聖き徳の　飛鳥の夢の　明日をしのばゆ
明らけき　み光を　おろがみまつる
聖の宮の　御前にありて
聖の宮の　御前にありて